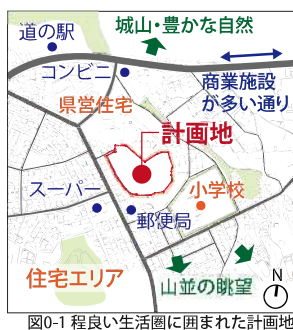


『庭(ニワ)のある、さとやま団地』

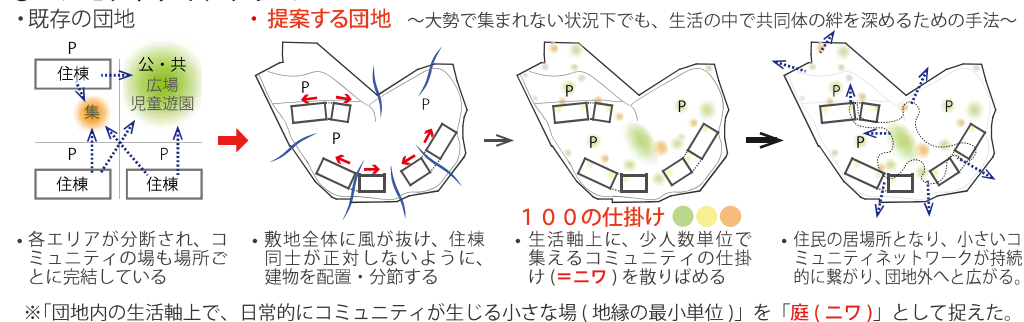
全ての住民が働きかけやすい、地縁を育む100の仕掛け

●分析と方針

- 熊野町貴船地区の「貴船」とは、元来「山水豊かな場所」を指し、なだらかな高低差と緑豊かな自然の中で、人の営みに適した程良いスケールや生活圏を有しています。
- 熊野では、小さな住区を「庭(ニワ)」と呼ぶ固有の文化があり、人々がニワに集うことで、交流が育まれてきました。
- 今後は熊野有料道路の無料化など、住まいを選ぶ若い世代にとって熊野町が魅力的な選択肢となり、将来的に三代が住みよい緑の生活創造都市となることを目指しています。
- そこで、全ての世代が暮らしやすく、日常の中に住民同士が自然に繋がることのできる生活空間の整備が重要です。



●コンセプトダイアグラム



●受け継がれるコミュニティを生む、100の仕掛け(=ニワ)



(テーマ1) 持続可能な団地コミュニティの形成

庭(ニワ)が軸となる連続的なコミュニティの形成

必然のコミュニティを形成する生活軸上の無数の「ニワ」の設え

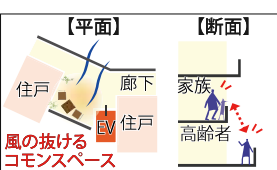
人々を自然に出迎える「公園団地」

- 見通しが良く、開放的な団地エントランスを計画します。
- 直接住棟へアクセス可能な緑豊かな周遊路を計画し、公園の中にある団地のような設えとします。



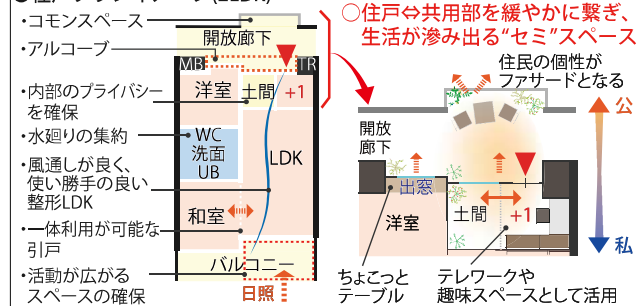
住棟内で繋がりを生むコモンスペース

- EVに近接して、コモンスペースを計画します。各階ごとに形状を変化させ、希薄になりやすい他階(多世代)との繋がりを生むきっかけを作ります。

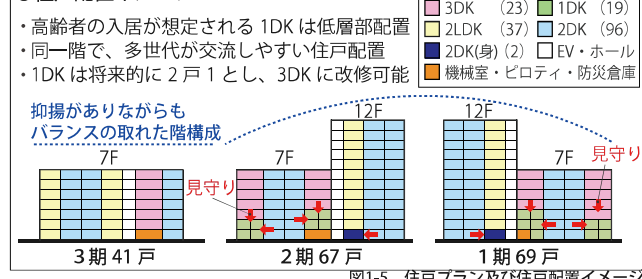


開きやすい、中間領域(土間)のある住戸プラン

●住戸プランイメージ(2LDK)



●住戸配置イメージ

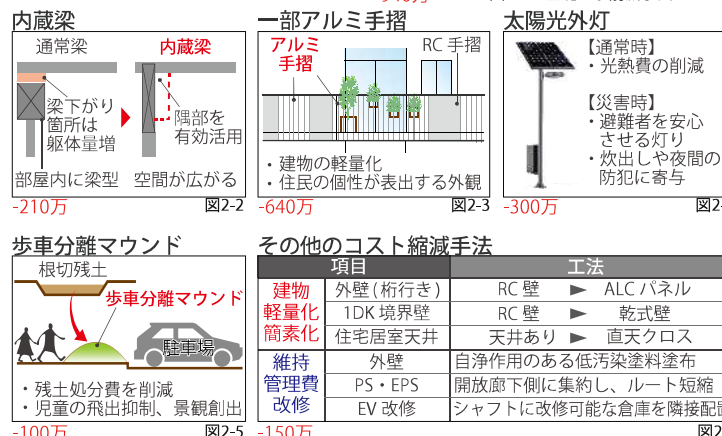


(テーマ2) 実現性の高いコストの縮減策

コスト縮減しながら空間を豊かにする手法

費用対効果の高いコスト縮減策が、団地での生活を豊かにします

- 敷地は良好な地盤が想定できるため、中層棟は地盤改良を採用し、工期短縮及びコスト縮減を検討します。
- 高層棟は、支持地盤までべた基礎を採用し、杭や地盤改良を不要にします。また、根切範囲と躯体量も削減可能です。



区分	第1期	第2期、第3期	全体
建築工事費	931,500千円	1,458,000千円	2,389,500千円
設備工事費	262,200千円	410,000千円	672,600千円
外構費(集会場を含む)	77,000千円	60,000千円	137,000千円
総工事費	1,270,700千円	1,928,400千円	3,199,100千円

※解体工事は別途。消費税相当額を含まない。

(テーマ3) 地域のまちなみに調和した景観形成

「庭(ニワ)」×「ひと」が織りなす、さとやま景観

熊野の風景と風土になじみ、世代を問わない豊かな景観を生むために

景観資源の分析と方針

- 本敷地周辺は、街並みの背景に山の稜線が見え、人々の生活と自然の風景が折り重なった、里山の景観を形成しています。
- 北側既存棟及び建設中の北ブロック棟は、高層棟と低層棟が連続し、抑揚のある建物構成となっています。
- 本計画では、①自然と共にある住民の生活景観の表出、②山並み、既存棟に調和する住棟構成、③風土になじむ色彩、外構計画に加え、エリアブランドを生む新たな景観価値の創出を目指す方針とします。

周辺への配慮、団地内景観の創出

- 東西住宅地側は中層棟を配置し、圧迫感を抑えます。中央を高層棟とし、南に広がる三石山と石嶽山の稜線に呼応した住棟スカイラインとします。
- バルコニーは、アルミ手摺をランダムに設けます。風景になじむ里山カラーと、リズムカルに滲み出る住民の個性が、豊かな団地景観を創出します。
- 住棟バルコニーと共用空間とのバッファーとして、景観庭を整備します。周遊路の緑地と連続させ、住民生活と緑が共にある生活景観を形成します。

住民の愛着が沸く、新たなデザインコード

- 敷地内のサインやストリートファニチャーのデザインを統一させることで、団地風景の新たな景観要素となります。また、来客時の案内のしやすさにも配慮します。
- 100の仕掛け(ニワ)を見える化したサインを、安価なカットニングシートにて検討します。



25.0 cm × 11.5 cm = 287.5 cm

